

社会貢献活動

■「カシオワールドオープンゴルフ」を開催

カシオは1981年以来、スポーツ振興による社会貢献を目的として、鹿児島県の「いぶすきゴルフクラブ」において「カシオワールドオープンゴルフ」を主催しています。開催地である指宿市・開聞町に対しても、カシオ製品を寄贈して学校教育等に活用いただくほか、地元のジュニアゴルフファアーを対象としたレッスンの開催、トーナメント開催期間中に行ったチャリティ収益金の寄付など、積極的な地域貢献を図っています。

なお、25周年という節目を迎える2005年度からは、創業者の出身地であり、主力の生産子会社を構える高知県に開催地を変更し、地域とのさらなる密着化を図ります。



地元ジュニアゴルフファアーへのレッスン会

■渋谷区の「徒歩帰宅訓練」に協力

渋谷区では、毎年9月1日の「防災の日」に、防災訓練の一環として帰宅困難者を想定した「徒歩帰宅訓練」を実施しています。カシオは2003年以来、こうした活動に協力しており、コースの途中にある本社ビルを休息や情報提供のための「支援ステーション」として活用いただいています。



本社前で休息を取る参加者の方々

2004年度は、37人の参加者が、代々木公園から笹塚中学校へと向かう約

4.5kmのコースを1時間強かけて歩きました。参加者たちは、本社ビル前の仮設場所で飲料水を補給したり、当社のトイレで用を足したりと15分の休憩を取り、当社社員の激励を受けて元気に歩き始めました。

■チューリップの里親

カシオ羽村技術センターが位置する東京都羽村市では、「根がらみ前水田」を保全するため、休耕中の水田にチューリップを植栽しており、毎年4月には「はむら花と水の祭り」の後期に「チューリップまつり」が開催され、多くの観光客が訪れています。

2004年11月、カシオはこの植栽に参加して約300坪の休耕田に15,000球の球根を植え、チューリップの里親となりました。地元のボランティアの方々による手入れのおかげで、2005年春には色とりどりの花を咲かせました。



カシオが里親となったチューリップ畑

市民社会への貢献

■「第4回イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」プロジェクト支援

カシオでは、2004年に開催された「第4回イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」プロジェクト～FEEL THE TIME OF NATURE～に参画。知床・根室、小笠原、大方町（高知県）など全国10カ所のウォッチングポイントにおいて、イルカ・クジラなどのウォッチングのレベルアップに協力するこの取り組みをサポートするために「G-SHOCK」や「Baby-G」の

売上の一部を寄付しました。

また、お台場のアンテナショップでの「イルカ・クジラステーション」の展示や、カシオ流通の店頭などを通じて、アイサーチの活動の認知促進を図っています。



G-SHOCK「イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」モデル

■熱帯雨林保護団体への支援

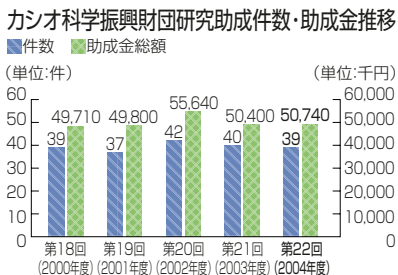
カシオはアマゾンの熱帯雨林の保全と、先住民の文化存続のために活動している熱帯森林保護団体「RFJ: Rainforest Foundation Japan」を支援するために、「Rainforest」ウォッチの売上の一部を寄付しています。

※表紙左下の写真参照

■カシオ科学振興財団の活動

（財）カシオ科学振興財団は、故・榎尾茂前会長以下、榎尾4兄弟が設立発起人となって、我が国の学術研究の発展と振興に寄与するため、1982年に設立した財団です。

活動内容としては、「特に若手研究者による萌芽的な段階にある先駆的かつ独創的研究を助成すること」を主眼に、毎年40件程度の研究助成を行うとともに、海外派遣助成、研究会助成を年間10件程度行っています。



※海外派遣助成・研究会助成を除く

2004年度は、研究助成として39件、海外派遣助成・研究会助成合わせて14件、合計53件、総額約55,000千円の助成を実施。設立以来の助成金総額は約11億円に達しました。

■「教員の民間企業派遣研修」に協力

カシオは経済界と教育界とのコミュニケーション促進の一環である「教員の民間企業派遣研修」に、受入企業として参画しています。

（財）経済広報センターが主催するこの活動は、小・中・高等学校等の先生方に企業活動を体験していただき、その体験や見聞を、授業を通じて子どもたちへ伝えてもらうことを目的に、1983年から毎年夏休み期間中に実施されています。

初めての参画となった2004年度は、8月2日～4日までの3日間のプログラムで、小・中学校7名の先生方の研修を行いました。参加された先生方は、民間企業の目標と夢を持った仕事の進め方に驚かれ、教育の現場にもぜひ活かしたいと、大変満足されていました。



先生方への研修

■「企業と生活者懇談会」を開催

（財）経済広報センターでは、同センターの会員である一般生活者の方々と企業との相互理解を目的とした「企業と生活者懇談会」を主催。すでにさまざまな業界の企業において、83回もの懇談会が開催されています。

カシオはこの懇談会を「外部の忌憚ない声をお聴きするとともに、当社

の活動を一般生活者の方々に知っていただく良い機会になる」と考え、1月17日、本社ビルにおいて開催しました。当日は20名の参加者をお迎えして、総務部による概要説明の後、司会を務めた同センターと、CSR推進室、広報部、お客様相談センターを交えた懇談が行われました。生活者の視点からの質問・要望を通じて多くの情報が得られただけでなく、参加者の方々にカシオへの理解を深めていただくことができ、双方にとって非常に有意義なものとなりました。



企業と生活者懇談会

■「ユビキタス社会のための次世代オフィス」シンポジウムに参加

（社）ビジネス機械・情報システム産業協会では、経済産業省の後援のもと、次世代オフィスのコンセプトとして「ユビキタス・コラボレーション」を掲げたシンポジウムを2004年7月に開催しました。ネットワーク環境を駆使して「いつでも、どこでも、誰とでも、最適な協働が得られる」ことで、個の強化とチームの強化を同時に実現する次世代オフィスを提案するこの活動に、カシオは羽方常務がパネリストとして参加し、技術的な側面からのサポートを行っています。

■新潟中越地震の義援金

2004年10月23日に発生した新潟中越地震に対して、カシオとしての募金活動の実施を要望する声が各職場から

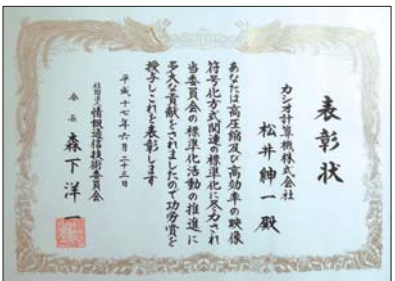
上がったことで、労働組合とCSR推進室が主体となって、広告費が義援金となる「お見舞い広告」の実施と、カシオグループ労使共同で寄付を取りまとめることを決定。また、集まった募金と同額を会社が拠出することを社長が御断しました。

11月4日に募金予告をスタートし、具体的な活動方法について組合・福祉会・会社が話し合った上で、同月10日には募金要項をメールとウェブで告知しました。同月30日までの間に2,490,667円の募金が集まり、これを「カシオグループ義援金」として日本赤十字社とJAMへ寄付を行いました。これを受け、カシオ計算機は、募金と同額の250万円（一万円未満を切り上げ）を拠出し、日本赤十字社宛に寄付を行いました。

また、義援品として製品の寄贈も行いました。被災地における情報ツールへのニーズに応えるべく、ラジオ付きポケットテレビ（防水）およびアダプタを各300台。加えて、日本時計協会の一員として、置時計（目覚まし時計）1,000個、掛け時計500個を寄贈しました。

■次世代技術の貢献で表彰

2005年6月23日、カシオ計算機開発センター第二開発部の松井紳一が「高圧縮および高効率の映像符号化方式の標準化に関する著しい功績」により、社団法人情報通信技術委員会より表彰を受けました。



表彰状